

成人女性と男女大学生の服装関心度の比較

渡辺澄子（松阪大女短大）

【目的】人はすべて個性的であり多様である。興味や関心の持ちどころも似たところもあり違うところもある。服装に対する関心度においても、その強さは人によってかなりの開きが見られる。この違いは何によるものかを明らかにするため、本報告では成人女性と男女大学生を対象に質問紙による調査を行い比較検討した。

【方法】調査時期は1997年11月から1998年5月にかけて数回に分けて実施した。郵送留置法により成人女性（21歳～52歳）は512名有効回収した。また集合調査法により男子学生（20歳～22歳）は116名、女子学生（18歳～20歳）は361名有効回収した。分析方法は単純集計、クロス集計、因子分析、分散分析によるものである。

【結果】服装に対する関心度18項目を単純集計したところ、調査対象者間の回答にはかなりの開きがみられた。次に18項目を因子分析し、4つの因子を抽出した。そのうちの主要なものを、購買行動（ショッピング）、着装行動（コーディネート）、認知レベル（自己表現機能）と解釈した。さらにこの3つの関心要因を取りあげ、それらが世代、性別、感性とどのように関連しているかを検討した。認知レベルではほとんど差がみられなかったが購買行動と着装行動においてかなりの差がみられた。成人女性の年齢の開きにおいてはむしろ40歳後半において若い世代と共通するものがみられた。